



# 駒本の力

駒本小学校(家)  
教育活動紹介便り  
校長 田中 克昌  
NO. 10  
平成27年10月2日

## 体力向上の取組について

前号で本校が、本年度、オリンピック・パラリンピック教育推進校の指定を受けていることについては、お知らせいたしました。その取組の中の一つとして、体力向上に向けた取組を積極的に行っていますので、それらを紹介いたします。

名称	ねらい	内容
駒けん (けん玉)	<ul style="list-style-type: none"><li>全身のコーディネーション能力の向上</li><li>手先の器用さの向上</li><li>日本の伝統文化に親しむ</li></ul>	技のリストに沿って、中休みに全校でけん玉に取り組む活動
駒縄 (縄とび)	<ul style="list-style-type: none"><li>持久力の向上</li><li>敏捷性の向上</li></ul>	中休みに縄跳びタイムを設定し、縄跳び回数カードに跳んだ回数分、色を塗る活動
駒ザイル (ダンス)	<ul style="list-style-type: none"><li>リズム運動に親しむ</li><li>表現力の向上</li></ul>	中休みにダンスタイムを設定し、いろいろなダンスを踊る活動
チャイムダッシュ (走)	<ul style="list-style-type: none"><li>敏捷性の向上</li><li>走力の向上</li></ul>	中休みに全校で40mダッシュを行う活動
駒ケット (投げる)	<ul style="list-style-type: none"><li>投げる運動に親しむ</li><li>投力の向上</li></ul>	校庭に的を設置し、中休みにボール投げタイムを設定し、的当てを行う活動
駒鉄 (鉄棒)	<ul style="list-style-type: none"><li>鉄棒に親しむ</li><li>全身のコーディネーション能力の向上</li></ul>	中休みに全校で鉄棒に取り組む時間を設定し、鉄棒カードにチャレンジする活動
駒ラン (持久走)	<ul style="list-style-type: none"><li>持久力の向上</li></ul>	中休みに全員持久走を行うとともに、ランニングカードを配布して、走行距離に応じてカードに色を塗る活動



左の写真は、現在行っている「駒ケット」の活動です。休み時間の終わり頃になると、担当の先生の合図で、子どもたちは一斉に玉入れ用のお手玉を持ち、レベルに応じた的に向かって、的当ての活動に取り組んでいます。活動の状況や課題が子どもたちの意欲を高めており、どの子どもも夢中に「駒ケット」に取り組んでいます。体力は愛と熱と力の「力」にとっても重要ですので、様々な活動に取り組んでいきます。

## 人を育てることの難しさ 1

やって見せて、言って聞かせて、

やらせて見て、ほめてやらねば、人は動かず。

話し合い、耳を傾け、承認し、

任せてやらねば、人は育たず。

やっている、姿を感謝で見守って、

信頼せねば、人は実らず。

山本五十六

太平洋戦争時代の連合艦隊司令長官として知られる、山本五十六氏は様々な語録を残されました。その中でも有名なものが、今回紹介する人材育成訓です。特に有名なのが、「やって見せて、言って聞かせて、やらせて見て、ほめてやらねば、人は動かず」という言葉です。しかし、この言葉には後二つあります。それが「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず」と「やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」という言葉です。一番目の言葉があまりにも有名で、二、三についてはご存じない方も多いのではないのでしょうか。三つの言葉を端的に表すと、一つ目の言葉は「模範、説明、行為、賞賛」、二つ目の言葉は「会話、傾聴、承認、任用」、三つ目言葉は「感謝、見守り、信頼」、となります。

「やって見せて、言って聞かせて、やらせて見て、ほめてやらねば、人は動かず」の「やって見せて」「言って聞かせて」について解説したいと思います。

### 1. 「やって見せて」(模範)

まずは「やって見せて」(模範)ということですから、教える人間が見本・模範を見せるということです。これは、学校の学習では学習活動のゴール(山の頂)を見せることであると考えます。細かな作業などでは、教員が子どもたちに実際に、やって見せて、模範・見本を示すことが大切です。常に子どもたちに、山の頂を示せられる大人でありたいものです。そうすれば、後は山への登り方を教えていけばいいのです。

### 2. 「言って聞かせて」(説明)

次に行うことが「言って聞かせて」(説明)です。これは、従来の説明という概念ではありません。一方通行でとにかく説明したよ、という状態ではありません。「言って聞かせて」なので、相手の心に届いていなくてはなりません。それも聞こえているだけではなく、納得してもらわなければなりません。さらに行動しようと思ってもらわなければなりません。

要は、送り手が何をおくったかではなく、受け手がいかに受け止めたかが大切なのです。「人見て法説け」という言葉があります。相手の状態や生活環境、能力、今までの経験、性格等をじっくりと見て、相手に応じて教えなければならないということを教えている言葉です。本当にそう思います。1年生に6年生に話すように話してしまっただけでは分かってもらえないなんていうのは、誰だって分かります。

「やって見せて、言って聞かせて」ということによって、子どもたちは、「よし大人が見本を見せてくれて、そこまで自分のことを考えて説明してくれたのなら、やらねばならない、ぜひやりたい」と変化してきます。そこで「やらせてみて」となるわけですから。

